

【平成 29 年度 ラオス世界遺産修復プロジェクト】

（活動報告 No. 1）



身延山大学国際日蓮学研究所が行っている「ラオス世界遺産修復プロジェクト」は平成 29 年度活動として平成 30 年 2 月 15 日～3 月 10 日の 24 日間、ラオス人民民主共和国ルアンパバーン世界遺産地域の諸寺院に格納されている仏像の修復・制作を行った。その内容の一端を記せば、「木彫仏修復活動」としてラオス修復技術習得者 3 名（Mr.Sithong, Mr.Oudon, Mr.Aonchan）に加え、ルアンパバーン国立工芸大学学生の 3 名に仏像修復指導を行い、彼らと共に計 4 体の木彫仏修復を行った。

今回は特に仏像修復としてワット・ヴィスンの木彫仏、また新たに現地住民より依頼のあったワット・タットノイの火災被災仏の修復に着手。それに合わせ破損が進み、大きく欠落が懸念されるワット・アーパイの大仏の修復にも着手した。本年度は「3D 測定器」を購入。この機材を使用することにより、即時に破損状況を可視化及びデータ化することが容易となり、修復方法を迅速に検討す

ることが可能となった。さらにこれらの修復作業に加え、以前より進めてきたパライフンの研究を基に、剥離部分への樹脂含浸、アンカーの打ち込み、パライフンの充填。さらに漆箔と古色を施す技術の研究・技術継承も行った。

「フランス国立極東学院教授 ピーター・スキリング博士 訪問」

本プロジェクト担当の柳本伊左雄特任教授、シル・エマ・ストロースマン特任講師は今回、フランス国立極東学院（略称 EFEO）教授 ピーター・スキリング博士を訪問。本プロジェクトの概要を紹介し、本プロジェクトへの理解と助言を求めた。





本プロジェクトの概要を紹介する柳本教授とシル講師

ニカ・ヴィモルケセム博士とサンティ・パクディカム博士が同席され、柳本教授・シル講師の紹介内容に大変興味を示され、本プロジェクトに対し助言を約束された。

(場所)

タイ王国 シリントーン人類学センター

(参加者)

○身延山大学

柳本伊左雄特任教授

シル・エマ・ストロースマン特任講師

○フランス国立極東学院

Dr.Peter Skilling

Dr.Kannika Vimolkasem

Dr.Santi Pakdeekham

平成 29 年度ラオス世界遺産修履プロジェクト

1. 期 間：平成 30 年 2 月 16 日～3 月 15 日

2. 場 所：ラオス人民民主共和国ルアンパバーン世界遺産地域

3. 参 加 者：身延山大学：13 名

(浜島典彦、三輪是法、柳本 伊左雄、シル・エマ・ストロースマン、木村中一 他)

：ラオス側：11 名

※本プロジェクトは「国際交流基金」や「日蓮宗宗務院」、「ラオス仏像修復サポーターズクラブ」「太田慈光会」などより多額の助成金を頂戴し、進められています。

(木村中一 記)

フランス国立極東学院はフランス教育省の管轄下で、東南アジアなどの諸文化等を研究することを使命とする研究組織であり、ここにおいて教授を務めるピーター・スキリング博士は現在タイを拠点として精力的に仏教研究活動を展開している世界的著名な仏教学者である。

今回の訪問にはピーター・スキリング博士と共に、タイの著名な碑文学者であるカン



和やかに談笑されるピーター・スキリング博士